特243
575

農村に於ける高等小學校教育

岐阜縣土岐郡釜戸尋常高等小學校

0050861000

0050861-000

特２４３－５７５

農村に於ける高等小学校教育

岐阜県土岐郡釜戸尋常高等小学校

昭和１１

AHM

特243
575

（開墾地實習）

（農場ノ一部）

（有畜農場）

（アンゴラ兎剪毛實習）

目次

寫眞（開墾地實習）（農場ノ一部）（有畜農場）（アンゴラ兎剪毛實習）

一、村の大勢　一

二、經濟更生計劃の大要　二

三、小學校の一般的施設經營　六

四、高等小學校の經營　一七

五、高等小學校農業科の施設と指導　二五

農村に於ける高等小學校教育

一、村の大勢

本村は土岐郡の東端に位して惠那郡に接し、南部及北部は丘陵性の山岳に覆はれ、東西凡六粁、南北八粁、面積二十七方粁、菱形の農山村であつて、土岐川は村の中央を東より西に貫流し、河岸には狹長な平地を形成してゐる。河岸平地は土地が肥沃で農耕に適するが、他の大部分は山地で南方に屹立する屏風山は海拔七百九十余米、本村第一の高峯である。

地質は概ね第三紀層に屬し、其の母岩は花崗岩及長石によつて形成せられてゐる。

戸數六百三十一、人口三千七百四十一、農家は全戸數の約七割で、商工業一割五分、其他一割五分といふ割合である。

耕地面積は水田二百二町歩、畑五十三町歩、計二百五十五町歩で、農家一戸平均水田五段歩、畑一段三畝、計六段三畝となり耕地面積は近村に比し狹小である。

明治二十二年町村制施行の際、北隣りの大湫村と合して餘戸村と稱してゐたが、大正十年七月分離して現在に及んでゐる。

鐵道中央線は土岐川に沿つて東西に貫通し、山間農村としては交通上の恩惠を受けてゐることが至大である。

本村は古より花崗岩（土木建築用石材）長石（陶磁器釉原料）の採掘が盛であつて、長石の加工即ち石粉の製造業は農業と共に農村の工業として重要な家業となり、石粉は年産額十万圓に及び、本村の特産物となつてゐる。然し斯

業に從事してゐない大多數の農業者の勞力の不均衡と、養蠶業不振の影響、耕地狹小による主要食糧品の不足、因習による林業思想の缺除より來る林地生產力の低減、昭和四、五年に於ける雨度大水害の打擊等は、年と共に進む經濟の不況に一段の深刻味を加へ、村民の生活を脅すに至つた。嘗ては樂土であり平和鄕であつた本村も、暗雲に覆はれ人心の不安を招くことになつた。

二、經濟更生計畫の大要

(一) 計畫の眼目

昭和八年の調査によると、全村生產收入總額三十六万二千圓に對し、生活費其の他の支出總額は四十万一千圓となり、差引三万九千圓の不足を示してゐる。此の難局を打開せんが爲に、年生產收入を四十二万圓以上に增し、消費支出額を三十九万圓以下に低減して、再び理想鄕を建設せんものと村民一致協力して　1森林施行案の實施　2教育施設の改善と精神敎育の徹底　3產業組合の整備　4耕地擴張の　四大眼目を中核として經濟更生計劃を樹立し、昭和九年より其の實施に着手したのである。

(二) 更生信條

聖旨を奉体し自立自營の精神に基き、經濟と道德の併進に努め、擧村一致理想農村の建設を期す。

村歌

もろ共にわざをはげみてたゆまずば
釜戸のけむり立ちやまさらむ

(三) 計畫の大綱

(1) 收入增加に關する事項

(イ) 村基本財產　(ロ) 小學校基本財產　第一部　第二部　(ハ) 青年學校基本財產　以上の蓄積計劃

(2) 林業施行計劃

村有林一六六四ヘクタールを村直營造林地區七一八ヘクタール、官行造林地區一三五ヘクタール、縣行造林地區四二ヘクタール、村民共同使用地區七七〇ヘクタールの四地區に分ち、村直營地區は已植林地及自然造林地を除き一四ヘクタールを每年一一ヘクタールづつ植樹して十年間に、官行造林地區は每年二〇ヘクタールづつ植樹して四年間に完了の計劃、共同使用地區は向ふ五十年間採薪採草の目的で村民の共同使用に充て、愛林思想を養成して造林せしめる。

(イ) 木炭の生產、年八千俵

(ロ) 竹林（孟宗）茶園、及果樹園の經營

(3) 積立金　(イ) 小學校建築資金　(ロ) 育英資金　(ハ) 役場吏員退職給與資金　(ニ) 就學奬勵資金　(ホ) 罹災救助資金　以上の積立計劃

(4) 稅外收入の增加　(イ) 使用料の整理及奬勵　(ロ) 雜收入の增加　1石粉原石代の增加　2山林副收入の增加

(5) 納稅奬勵　(イ) 納稅思想の普及　(ロ) 納稅組合の活動　(ハ) 優良組合の表彰

(6) 村債の整理　(イ) 財產繰入に依る繰上償還　(ロ) 轉貸債償還の保全

(7) 經費節約　各種事業團体の助成金を節約し事業收入の途を開く

(8) 教育施設　(イ) 小學校　1人格の陶冶　2共同勤勞自治訓練　3愛鄕愛土の精神涵養　4組合思想の涵養
(ロ) 青年學校　1有畜農業實習所の設置　2宿泊訓練　3農村更生の精神涵養　4魂の鍛練
(ハ) 社會敎育　1共同生活の訓練　2經濟更生の精神涵養　3各種敎化團体相互の聯提　4敎化歷の作製
(9) 保健施設　(イ) 衛生組合の設置　(ロ) 衛生組合基金の造成　(ハ) 衛生思想の普及　(ニ) 巡廻無料診療所開設
(10) 社會施設　(イ) 職業紹介　(ロ) 貧困者救護　(ハ) 罹災救助　(ニ) 育英事業　(ホ) 吏員優遇施設　(ヘ) 就學奬勵
(11) 交通施設　(イ) 道路橋梁の整備
(12) 産業施設　(イ) 林道開設　(ロ) 荒廢地の復舊開墾　(ハ) 有畜農業の奬勵　(ト) 副業の奬勵
(13) 産業組合の整備及活動　(イ) 出資金の增加　(ロ) 信用部の充實　(ハ) 保管庫の建設　(ニ) 貯金奬勵　(ホ) 購買部の充實　1肥料の配給改善の徹底　2飼料配給の擴張　3農業生活用品の購買擴張
(ヘ) 販賣部の充實　1製產物販賣統制　石粉、米麥、其他農產物、副業生產物　2農業倉庫の充實　(ト) 生產物の金融　(チ) 不動產金融　(リ) 其他對人信用金融　(ヌ) 無盡賴母子講の整理活用　(ル) 產業組合中心の負債整理
(14) 生產及生產物の合理化　(イ) 耕地の擴張及開拓　1二十町步の開墾豫定　2二十一町步の桑園整理　(ロ) 牧野並に採草地設置　(ハ) 荒廢林地の復舊　(ニ) 主要農產物の增殖　1集約農業經營の奬勵　2生產技術の改善
(15) 地力增進　(イ) 自給肥料造產と有畜農業經營　(ロ) 不良土改良　(ハ) 用排水の改良　(ニ) 暗渠排水
(16) 土地集約的利用　(イ) 多毛作栽培　(ロ) 荒廢桑園の整理改植　(ハ) 空地利用　(ニ) 温床設置　(ホ) 品種の改良
(17) 生產技術の改良　(イ) 機械力並に畜力利用　(ロ) 病虫害の驅除　(ハ) 各種品評會競技會開催　(ニ) 各種講習講話會　(ホ) 指導造林設置　(ヘ) 促抑成栽培
(18) 共同諸施設　(イ) 共同倉庫、共同作業場の設置　(ロ) 穀物火力乾燥場設置　(ハ) 肥料の共同購入　(ニ) 稚蠶共同飼育場並に共同桑園設置　(ホ) 自家用味噌醬油の共同生產　(ヘ) 共同育雛
(19) 農業經營の複雜化　(イ) 經營組織の多角化　(ロ) 余剩勞力の生產化蠶加工の自給　(ハ) 栗、竹林經營　(ニ) 林產物の生產　(ホ) 水產經營、果樹並に園藝
(20) 生產加工　(イ) 農產物加工　(ロ) 畜產物加工　(ハ) 林產物加工　(ニ) 屑繭整理加工　(ホ) 果實加工
(21) 規格統一販賣改善　(イ) 出荷鷄卵檢查　(ロ) 石粉檢查
(22) 產業的組合團体の活動　(イ) 農業基礎團体　(ロ) 養蠶實行組合　(ハ) 養鷄組合　(ニ) 農藝組合　(ホ) 畜產組合
(23) 自作農奬勵

三、小學校の一般的施設經營

（一）教育方針

確固たる國體觀念の涵養と堅實なる國民精神の啓培を本義とし、聖旨の体得と國民的實踐力の体驗によつて人格の陶冶をなし有爲善良なる國民を養成せんとす。

（二）教育十綱領

一、敬神を以て思想の中心となし信仰的皇國精神、日本精神の作興に努む。
二、鄉土に即して教育を實際化し愛土愛鄉の念を涵養し鄉土の開發發展に貢献し得る人材を育成せんとす。
三、勤勞的陶冶を重んじ學習の作業化、一般作業の合理化を圖り勤勞愛好の精神を養ふ。
四、學校を生活の共同体とし學校生活、學級生活を通して社會生活、共同生活訓練をなし校外生活指導と相俟つて自治共同奉仕犧牲等の社會的精神の涵養をなす。
五、兒童の生活環象を教育の出發点とし亦歸着点とする。
六、兒童の個性を見つめ其の純化と發展とを促す。
七、兒童の体力增進と健康保全に不斷の留意を拂ふ。
八、總べての學習を鍛錬にまで引上げ實力の養成に資せんことを期す。
九、教師は純正なる國體觀念と純眞なる兒童愛鄉愛土に燃え、眞に勤勞を愛好し率先躬行其の範を垂れ農民とし國民としての魂を培ふことに努む。
一〇、教師は人格修養の過程を兒童人格發展の過程に投入し、確固たる信念を以て全員協力德化の任に當る。

（三）國民精神涵養の施設

(1)　定期神社遙拜
敬神思想の涵養、國体觀念の養成を目的として運動場の一隅に遙拜所を設け、神饌を供し、一月一日には皇大神宮二月十一日には橿原神宮　十一月三日には明治神宮に向ひ何れも祝賀式前に遙拜式を行ふ。

(2)　神社參拜
（イ）定期參拜
毎月一回（第一月曜尋一二、第二月曜尋三四、第三月曜尋五六、第四月曜高等科）教師引率して村社神明神社に參拜
（ロ）産土神社參拜及清掃
少年團各部落分團に於て毎日曜日及祭典前に各部落にある神社に早朝參拜して社殿境内の美化清掃を行ふ。
（ハ）玉串奉奠
村内各社の例祭と指定村社祈年祭には兒童代表玉串の奉奠をなす。

(3)　家庭に於ける敬神崇祖
家庭に於ては朝夕、神棚、佛壇に禮拜し神佛並に祖先に對し敬虔と感謝の念を喚起せしめる。

(4)　入學報告祭、卒業報告祭

村社神明神社にて行ふ。

(5) 天長節祝赤飯の會

四月廿九日天長節の式後、講堂内に祝の席を設け職員兒童生徒來賓一堂に會し赤飯を食べ聖德を讃へ聖業の萬歳を祝し奉る。赤飯は櫻花の模様に押し抜き紅白の重ねにしたもので青年學校女子部生徒の實習によつて調製せるもの

(6) 建國祭

二月十一日紀元節の式後、建國の式を擧げ兒童生徒の武道大會、講演會、建國の映畫會を催す。

(7) 明治天皇行在所拜觀

明治天皇御巡幸記念日（六月二十九日）に行在所を拜觀せしむ。

(8) 國旗の尊重

(イ) 國旗揭揚式

(ロ) 祝祭日記念日の國旗揭揚

(9) 天神祭

毎年二月二十五日に天神祭を行ひ、奉納の學藝會並に成績品（圖畫 書方 手工 手藝）の展覽會を催す。

(10) 殉難者奉祀

校内に村出身殉難者の靈を祀り春秋靖國神社大祭の當日神酒を奠して靈を慰め奉公盡忠の精神を喚起する。

(11) 二宮祭

毎年十一月十七日二宮翁の命日に翁の銅像前に供物をなし靈を祀り勤勞尊重の念を養ふ。

(12) 出動、入營、除隊軍人の送迎

(13) 皇大神宮參拜

毎年二月下旬卒業學年修學旅行をなし皇大神宮の參拜をなす。

(四) 鄉土教育施設

教科の實際化具体化に基調を置き、鄉土の認識を深め現在より將來への推移を考察せしめて文化建設に貢献せんとする鄉土感を養ふ。

(1) 鄉土の調査研究

各教科主任は鄉土の調査事項を分擔し兒童と共に鄉土の自然界、人事界の調査研究をなし研究的態度を養ふと共に其の資料を地圖又は圖表に表はし教育上に活用する。

(2) 教授細目の鄉土色具現

調査せる鄉土資料中陶冶價値多きものを教授細目鄉土欄中に記入して活用する。

(3) 村記念日と愛鄉心の涵養

七月一日分村の日を以て村の記念日とし全校兒童に訓話をなし、村勢の大要と村歌を印刷せる栞を配布し村歌を愛誦せしめる。

(4) 村勢一覽、村報、村暦の利用

村勢一覽は圖表として示し、村報村暦は所定の場所に掲示する。

(5) 鄉土博物資料の蒐集と標本製作

（イ）植物標本
（ロ）岩石標本
（ハ）魚類標本
（ニ）昆虫標本
（ホ）鳥類標本
（ヘ）茸類の原色圖
(6) 鄉土白地圖の利用
(7) 理科、地理、國史科教授に於ける校外指導地の設定
理科地圖、地形鳥瞰圖、國史圖の作製
(8) 遠足による鄉土の實施踏査
(9) 鄉土材料による手工、手藝の指導
(10) 鄉土植物の栽培
(11) 魚類の飼育

（五）共同生活訓練の施設
(1) 朝禮及夕禮の行事
(2) 報恩貯金
校恩感謝の精神により基本財産造成を目的として全校兒童毎月一人金一錢宛醵金し村役場に納入す。

大正十年より實施
(3) 學用品購買模擬組合の經營
(4) 修學旅行共同貯金
參宮旅行の費用に充つる目的を以て尋四以下は毎月金五錢宛尋五以上は金十錢宛共同貯金をなす。
(5) 晝食時の食事訓練
（イ）敎師兒童と共に會食
（ロ）食前の行事
（ハ）食事中の作法衛生
(6) 共同自治の訓練
（イ）學級自治會（尋四以上）
（ロ）學校自治會
(7) 校外生活訓練
少年團
尋三以上の兒童を以て組織し十二ヶ分團に分ち少年赤十字團及少年消防團を含めて左の行事を行ふ。
（イ）神社參拜及清掃
（ロ）道路掃除及修理
（ハ）通學途中の交通整理

（ニ）入退營兵の送迎及出動軍人の慰問
（ホ）共同部落試作場の耕作
（ヘ）役場、學校、組合等より發信の村内通信文書の奉仕配達
（ト）名所舊蹟、天然記念樹並に公共物の保護
（チ）茶實、炭、試作地收穫物花卉等の販賣により分團基金の造成
（リ）各種記念日のポスター作製及掲示
（ヌ）早起會、ラヂオ体操、遠足
（ル）團員の相互の見舞及吊慰
（ヲ）災害罹災地に義捐金の送達
（ワ）非常時訓練及隊列運動（共同動作の訓練）

（六）勤勞作業教育施設

學習の中心を教育的勤勞に置き鄉土教育公民的訓練と聯關して行ふことによつて知らしめることに努める。

(1) 修身科と各教科と聯絡し勤勞精神の涵養をなす。
(2) 各科の學習を作業化することに努め兒童の生活と環境との聯絡を緊密ならしめる。
(3) 學習は理解より工夫鍛錬にまで進ませ自發的研究心の養成に努む。
(4) 日々考査

毎日一科目に就いて簡單な考査をなし、理解の程度を見て次の指導の參考にする。

(5) 自習時間

正課終了後凡そ一時間を自習時間に充て自學的態度を養ふと共に反覆練習をさせる。

(6) 實驗實測の尊重
(7) 實業科（農業科）の尊重（農業科の施設と指導參照）
(8) 空地利用と自然物愛護

（イ）空地を利用して理科園、學級園、花壇、竹林、果樹園、林樹園等を設け花卉樹木等を栽培させ自然物を愛護することにより勤勞の精神を養ふ。
（ロ）魚類及家畜を飼育せしめて動物愛護、勤勞の德を養ふ。

(9) 氣象觀測
(10) 天氣豫報信號

五月中旬より六月中旬迄の養蠶期間岐阜測候所よりの豫報を受け信號す。

(11) 螟虫驅除

毎年六月中旬螟虫驅除日を設け尋五以上の兒童に於て全村苗代の螟虫驅除を行ふ。

(12) 植樹用苗甫の除草手入

村の林業施行案の大要を知らせ苗甫の除草手入をなさしめて愛林の思想を養ふ。

(13) 校舍内外の美化作業

毎日三十分宛共同作業時間を設け分擔して校舍内外の清潔整頓學習園の手入等美化作業に事從せしめる。

(14) 各種の當番勤務

各種當番は通常、臨時を問はず學校生活中の一機關であるといふ自覺を抱かせ勤勞精神の体驗と共に責任義務の觀念を養ふ。

當番勤務の種類

(イ) 購買部當番(高女) (ロ) 補助看護當番(高男) (ハ) 教室整備當番 (ニ) 校務當番(高男女)

(ホ) 氣象觀測當番(高二男) (ヘ) 家畜飼育當番(尋五以上) (ト) 給食當番(高女) (チ) 農場當番(高男女)

(15) 敎辨物の製作及修理 簡單なる敎辨物の製作並に修理は敎師と兒童の共同作業により行ふ。

(16) 作業日の設定 每週月曜日課業後職員兒童共に特別作業をなす。

(17) 學級文庫 草花家畜等の販賣によりて得たる收益を以て漸次充實せしめる。

(七) 体育養護施設

(1) 体力測定 每年一回全兒童の体力を測定し体位の均衡な發育と向上とを促す

(2) 要監察兒童に對しては特に敎授衛生に留意し家庭との連絡を密にする

(3) 口腔檢査の結果により乳齒殘根の拔去と齲齒の手入をさせる

(4) 齒磨敎練

(5) 國民保健体操 每日朝禮の際保健体操を行ひ、夏季休暇中はラヂオ体操の會を催す

(6) 運動日の設定 每週金曜日を運動日とし放課後約一時間敎師兒童共に各種の運動を行ふ

(7) 体育運動會 (每年一回秋季)

(8) 遠足運動 (每年一回春季)

(9) 登山及キャンプ生活 夏季休暇を利用して高學年に於て行ふ

(10) 水泳 每年七月一日より許可し注意のプリントを與へ指定の場所に於て行はせる

(11) 劍道 課外として每週一時間づつ高等科男子に課す

(12) トラホーム患者の處置 トラホーム患者は每日學校醫の許にて洗眼せしめ治療票の檢閱を行ふ

(13) 寄生虫驅除 每年二回(五月、十月)驅虫劑を服用せしめて寄生虫を驅除し殺虫劑を用ひて毛虱の驅除を行ふ

(14) 榮養食 (イ) 每年冬季五十日乃至六十日間の豫定を以て晝食の際味噌汁の配給をなす

(ロ) 榮養不良兒要給食兒に對しては山羊乳其他の給食をなす

(15) 暖房裝置 冬季には各敎室にストーブを取付けて保温の設備をなす

(16) 衛生週間のポスター製作

(17) 健康週間中の行事 (イ) 理髮組合より出張して奉仕無料散髮 (ロ) 衛生に關するプリントの配布

(イ) 學校醫の衛生講話 (ニ) 健康映畫會

(18) 凍傷の手當

(19) 傳染病の豫防と消毒

(20) 急救手當

(21) 健康優良兒及齒牙健康優良兒の表彰

(八) 掲示敎育

教育上參考資料を掲載して兒童の見聞を廣む

1 校庭掲示板　上、下運動場に各一面宛設置し一週間毎に參考事項を掲載する
2 運動掲示板　運動器具室に設置し運動に關する記事及寫眞を掲載する
3 理科掲示板　理科園に設置し理科に關する記事を掲載す
4 氣象觀測掲示板　溫度、風向、濕度、雨量等觀測の記錄を掲載す
5 給食掲示板　給食時に給食の献立を掲載し品名數量を示す
6 農場掲示板　第一農業實習地に設置し農業に關する記事を掲載す
7 成績品掲示板　校舍の昇降口及各教室に設置し優良成績品の掲示をなす
8 ポスター掲示　各昇降口に掲載す
9 新聞掲示

（九）家庭との連絡

1 父兄會　毎年二回（七月、二月）開催、父兄との懇談をなす
2 家庭訪問
3 文書による通信
4 父兄の學校參觀　（イ）隨時自由參觀　（ロ）成績品展覽會、運動會觀覽

（一〇）映畫教育

1 ワシノ映畫聯盟に加入して年六回主として教材映畫の映寫をなす　映寫機はエルモ十六粍躍進號
2 村内各種團体の催しにより隨時社會教育映畫の上映をなす
3 村内名所舊跡、官衙學校、各種團体の活動、産業狀態のフキルム作製

（一一）教師の研究

1 研究日の設定　毎週水曜日を研究日と定め研究授業、教科研究、學年打合、研究發表、講習會受講報告、教授細目の修正、新刊圖書の紹介等をなす
2 研究授業　（イ）定期　毎年四月、一ヶ年間の配當豫定案を作製し之によつて實施する
（ロ）不定期　教科主任並學級主任に於て隨時に行ふ
3 研究發表　教育思潮、教科の研究、教授の實際、學級の經營等について發表する
4 書道研究　毎月第一曜日の午後より中津高女日比野教諭を聘して書道の研究をなす
5 學校体操の研究　毎週運動日に新要目の教材について實地研究をなす
6 新刊圖書及雜誌新聞の共同購入
7 他校參觀　（イ）管内學校參觀（研究發表校）　（ロ）縣下視察旅行　（毎年一回）
8 講習受講　（イ）縣主催講習會　（ロ）夏季及冬季講習會

四、高等小學校の經營

（一）高等小學校の目的

高等小學校の目的については小學校令第一條に

「小學校ハ兒童身体ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス」

とあり、更に文部省訓令中に

「高等小學校ノ目的ハ義務教育ヲ終リタル兒童ニ對シ、更ニ進ミタル普通教育ヲ施シ國民道德ヲ涵養スルト共ニ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授ケ卒業後各種ノ事業ニ從事スルニ一層適切ナル性格ヲ得シムルニ在リ」

と明示されてゐる。之を要するに高等小學校教育は尋常小學校教育の上に、更に高次の國民的教養を與へて、一層國民たるの資質を向上せしむべきもので、その一般的、基礎的教育であることは論を俟たない。

（二）高等小學校教育の使命

この目的下に設けられた高等小學校の入學者は尋常小學校卒業者の七割を超え、然かもその卒業者の殆ど全部が直ちに實社會に入り第一線に立つて働く者のみである。即ち農となれば自ら鋤鍬を執り、商に從へば自ら店頭に立ち、工に入れば自ら槌を振る人々であつて、理論的な指導者でもなく、又技術上の輔導者でも無い、眞に汗して働く人々である。この意味に於いて高等小學校卒業者は躍進日本の中堅をなすものである。殊に本村の如き農村に於いては中等學校への進學者は極めて少なく、之に反して高等小學校への入學者は頗る多く、我が國の農業は、我が國の農村は、實に高等小學校卒業者の双肩にかゝると言ふも過言ではない。

その目的を思ひ、この現狀を見て、高等小學校教育が中堅國民の完成教育として、國民大衆の最終教養機關として如何に重大なる使命を有するかを深く認識し義務教育年限延長の必構をなすべきである。

（三）我が校高等科教育の重点

この重大使命達成のため我が校に於ては前に掲げた教育方針並に綱領を根本として努力を續けてゐるが、特に高等科に於ては次の諸点を重視して教養に努めてゐる。

(1) 現代社會は小悧巧を要求してゐるのでは無い、默々と誠心を以て貫行する不言實行の人を要求してゐるのである故に敬神崇祖を念とし信仰的皇國精神に透徹した德の人の養成、即ち日本精神を强調し帝國臣民たるの信念を以て至誠事に當る人物の養成を第一義とする。

(2) 生活指導の徹底を期し、勤勞愛好、共存共榮の精神を涵養し、職業人としての態度をつくる。働くことはそれ自身はや道德である、働くことによつて道德は益々陶冶される。即ち勤勞の德は誠實、努力、忍耐、同情、淳朴、儉約、正直、慈悲、共同、自立自營等凡ての德の基礎を涵養し形成する、この德こそ農村人の生命である。

(3) 人は生れながらに社會的のものである、社會によつて始めて人となつて行く、日本といふ立派な社會について十分の認識を持ち益々國体を立派にしてゆく爲に國家公民としての訓練の必要なことは言を俟たない。故に自治的訓練を高潮し、協同生活訓練即ち公民的陶冶を與へ堅實なる社會人を養成せんとする。

(4) 鄕土の土地が天惠に浴してゐるにせよ、ないにせよ、又人情が純朴であるにせよ、ないにせよ祖先以來の生活を繼續せしめてくれた自然は鄕土である、弊風を矯正するにしても鄕土を理解して後に始めて行はるべきことである。理解下に立つ愛鄕愛土の精神養成が農村振興の根本であり愛國心養成の基礎である。

(5) 職業指導　農村小學校の兒童は大体に於て農業に從事すべき境遇にあるが本村の如き農業戶數に對し、耕地の狹小な農村に於ては他出して職業を求めるものが相當に多い（高等科卒業兒童の動向調査參照）併しその何れの職業に進むとしても鄕土をよく認識せしめて愛鄕の精神を養ひ農業科の學習を通じて勤勞の精神を

涵養し、如何なる勤勞にも耐へ得る体力及意志の陶冶をなし、各自が個性に適したる職業を選擇するやうに指導するを6　体位の向上をはかり、產業、國防の第一線を擔當せしむるに足る不屈不撓の耐久力ある奮闘的精神と体力を養ふ。

（四）經營上の問題

我が校高等科教育の施設經營に就ては小學校の一般的施設經營の部分で既にその大要を述べたからこゝには主として高等科のみに關係を持つことを記載する

1　尋常高等小學校の特質　高等小學校の教育が尋常小學校の課程を基礎として國民普通教育の完成をはかり、社會教育（青年學校の教育）の基礎を作るといふ点に於て此の三者連絡的、階段的に進むべきものであると思ふ。尋常高等小學校はこの連續的教育といふ意味に於て、効果を表す点に特質を有するものと言へる。

從來、高等小學校獨立の主張もあつたやうであるが農村の小學校では經濟の点より見ても通學距離の点より見ても尋常高等小學校として國民普通教育の充實を圖ることが最も効果的であらう。

2　尋常科卒業兒童の動向と高等科入學率（最近十ヶ年の調査）

年	尋常科卒業者			上級學校入學者			進學セザル者			高等科入學者			率
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
昭和二年	四八	三四	八二	一〇	二	一二	三一	一一	一四	三五	二一	五六	〇、六八
仝三年	四八	四七	九五	九	五	一四	九	一一	二〇	三〇	二一	五一	〇、五四
仝四年	四一	四五	八六	七	四	一一	二	一四	一六	二二	二七	五九	〇、六八
仝五年	四二	三七	七九	六	三	九	四	九	一三	三二	二五	五七	〇、七二
仝六年	三〇	三八	六八	四	〇	四	四	一三	一七	二二	二五	四七	〇、六九
仝七年	四三	四四	八七	二	二	四	九	一三	一三	三七	三三	七〇	〇、八〇
仝八年	四七	四五	九二	四	四	八	一三	四一	三四	七五	〇、八一
仝九年	三六	三七	七三	三	四	七	一三	三一	二二	五三	〇、七三
仝十年	五五	四五	一〇〇	八	三	一一	一四	四二	三三	七五	〇、七五
仝十一年	三六	三九	七五	七	四	一一	一四	二五	二五	五〇	〇、六七

進學せざる者男子平均四人　女子平均十三人

右の調査によつて平均一ヶ年間の割合を見るに尋常科卒業兒童中上級學校に入學する者一割一分、高等科に入學する者七割一分、進學せざる者一割八分といふ割合になる。上級學校に進學するものゝ他の所謂農村に比して稍多きを呈するは多治見、土岐、大井、中津等の男女中等學校に汽車通學をなし得る恩惠の然らしむる處であらう。

進學せざるもの一割八分の平均實員數は僅かに十七人（男子四人、女子十三人）に當り、卒業後他出して職業に從事するもの許りである。

義務教育年限延長の曉にはこの十七人が高等科に入學すれば足ることになる。

3　學級編成　尋常科卒業兒童中進學せざるものが男子に比して女子に多きこと、この期兒童の生理的變化を考慮して男子を二學級とし女子を複式の一學級として編成したのである。

4　使丁の無い學校　本校には學校使丁といふものを置か無い、これは創立以來置かなかつたものである。使丁の仕事は教師と兒童とが共に分擔して其の責務を果すのである、此の任務を負ふ兒童は主として高等科の兒童であつて、この運用が何等の不平不滿もなく圓滑に進む所に綜合教育の現れがあるのである。使丁を置かぬ事を單に經濟的方面のみより考へると兒童を使丁視して酷使したり兒童の勞働的負擔を徒に多くして學習に支障を來すやうなことを招致するから充分に警戒しなければならぬ。

5　學校のことは學校で解決させる

農村小學校に於ては家庭學習に對する課題の提出方については充分の考慮を拂はなければならない。

『もう時間がないから家でやつて來るやうに』とか『もつと家でしつかり勉强しなさい』とか言ふやうに無計劃な課題の提出や、敎師が個人的に指導しても難解な問題をプリントにしてどし〳〵課題するやうなことは農村小學校では禁物である。

殊に高等科の兒童に於ては相當に家業の手傳があり、その上に參考書一つも無い家庭でどうして過重の課題を處理することが出來やう、本校では正課終了後に自習時間を設け其の日に授けた各敎科の要点は其の日の中に充分に理解させるやうに努めてゐる。家庭學習の部分を學校でやらせるといふことである、課題については負擔が過重にならぬやうに家庭で兒童の獨力で出來得るものを課して家庭學習の習慣をつけることにしてゐる。然し兒童の自由研究はこの限でない。

6　農繁期の取扱ひ　本村の農繁期中、特に多忙な時期は六月下旬の春蠶上簇期に引つゞく挿秧期と十一月上旬の收穫及麥蒔期である。この期間中、學習上の緊張を保たしめる爲、休暇としないで約一週間高學年の授業を短縮して、毎朝一時間とし家業の手傳をさせ、必要のない者は自習學習をさせ指導する。

7　職業指導と就職の斡旋　高等科卒業兒童に對しては最も家庭との連絡を密にし性能と家庭並に兒童の希望とを參酌して上級學校を志望するもの、鄕土に止まるもの、他出するものに分け、鄕土に止るものに對しては自家並に村開發の責務を自覺させ、中途に迷ひを生せしめぬやうにし、他出するものに對しては職業紹介所及前他出者にして相當成功を收めたるものと連絡を取り其の性能に應じて就職の斡旋をしてゐる。

高等科卒業兒童の動向

年	高等科卒業者	村在住者	出稼者	上級學校入學者	他校高三入學者
昭和二年	四七 男二六 女二一	二八 一四 一四	一六 九 七	三 三 〇	〇
仝三年	三七 男二四 女一三	二九 一七 一二	六 五 一	一 一 〇	一 一 〇
仝四年	三七 男二一 女一六	一七 一二 五	一一 六 五	六 〇 六	三 三 〇
仝五年	五一 男三〇 女二一	二八 一二 一六	一八 一四 四	四 三 一	一 一 〇
仝六年	五〇 男二九 女二一	二七 一三 一四	一七 一二 五	六 四 二	〇
仝七年	四四 男二三 女二一	二一 八 一三	一六 一一 五	五 二 三	二 二 〇
仝八年	四三 男二一 女二二	一八 四 一三	二一 一五 六	四 一 三	一 一 〇
仝九年	五四 男二八 女二六	二四 一一 一三	一八 一四 四	一一 二 九	一 一 〇
仝十年	六七 男三八 女二九	二九 一七 一二	二七 一四 一三	七 三 四	四 四 〇
仝十一年	四八 男二九 女一九	一七 八 九	一八 一〇 八	六 四 二	八 八 〇

實習地略圖

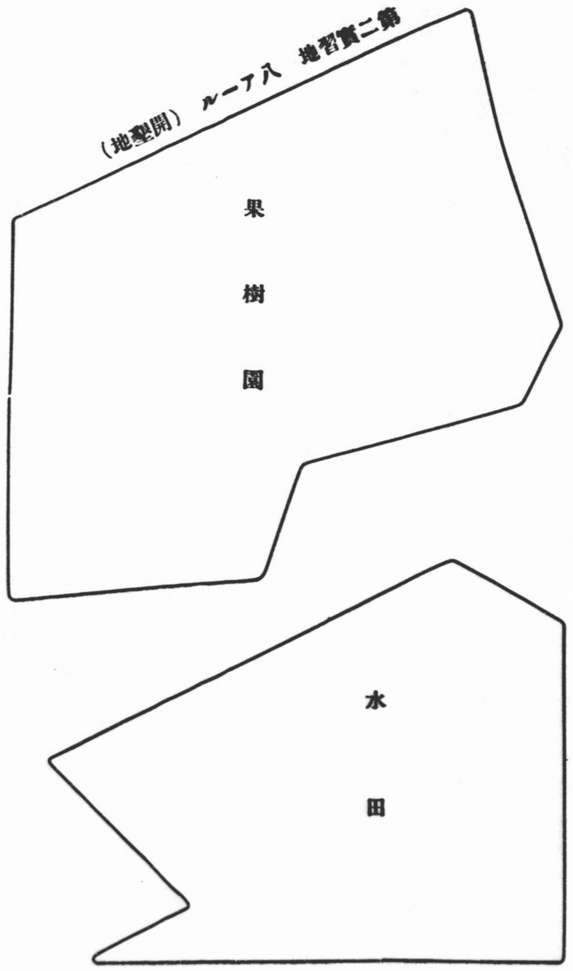
一、農業科敎授の目的
二、農業科經營の方針
三、農業敎育系統
四、農業實習を中心としたる實際的施設
1實習地の面積
2實習地の區分
3實習用建物
4實習用具
5家畜舍
五、農業實習指導概要
1實習指導法
2實習指導上の注意
3栽培實習
4實習地作付豫定一覽
5販賣實習
6畜產實習

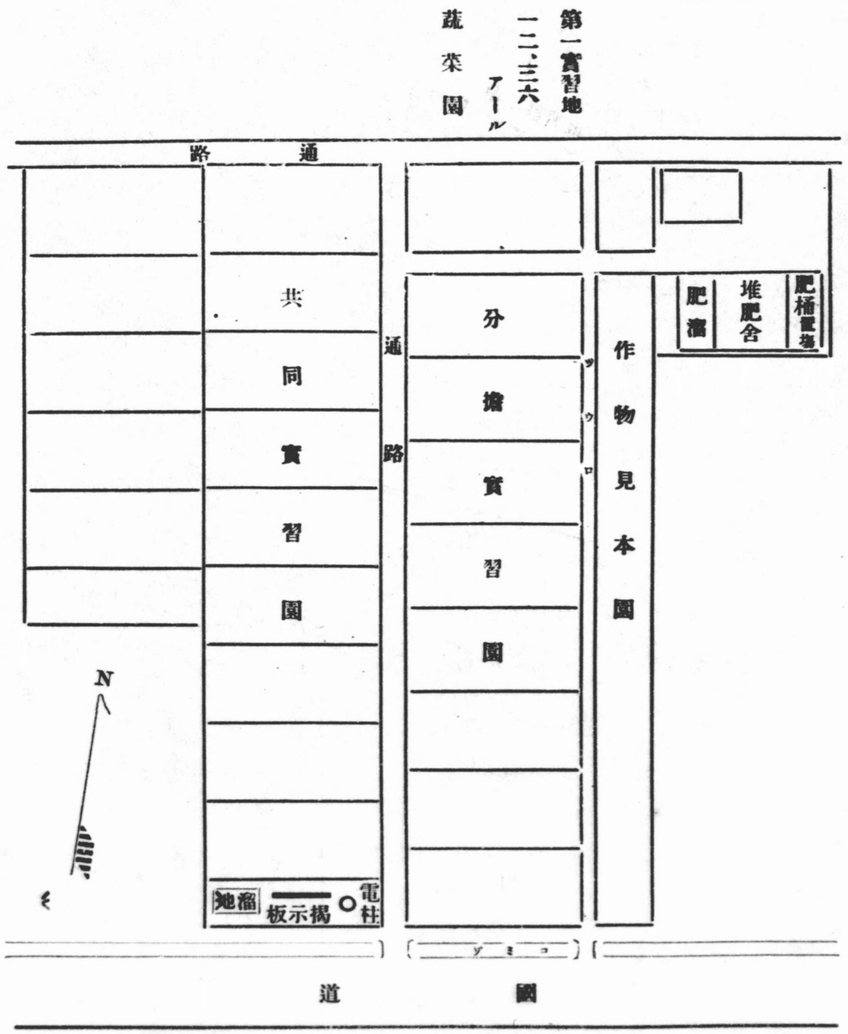
7 畜舍飼育狀況一覽
8 開墾實習
9 農業手工
10 家庭實習
11 農場當番作業
12 休暇中の作業
13 螟虫驅除
14 農産物品評會
15 試食會
16 慰勞會
17 農場收支計算（昭和十年度）
18 農産物實上高比較一覽
19 畜舍收支一覽
20 諸表簿
六、鄉土の農業基本調査
1 我が村に於ける農業狀況
2 村内耕地土性一覽

以上

有畜農場略圖（其一）

小學校實習地畧圖（其二）


第二實習地　八アール（開墾地）
果樹園
第三實習地　五アール
水田


第一實習地
一二、三六アール
蔬菜園
通路
共同實習園
通路
分擔實習園
作物見本園
堆肥舍
肥桶置場
肥溜
N
池溜
板示揭
電柱
道
園

一、農業科教授の目的

1　農業に關する普通一般の知識を得せしめ以て將來農業研究の素地を作ること

2　農業の趣味を長じ尊農愛好の念を養ふこと

3　勤勉利用の心を養ひ兼ねて經濟思想の發達に資すること

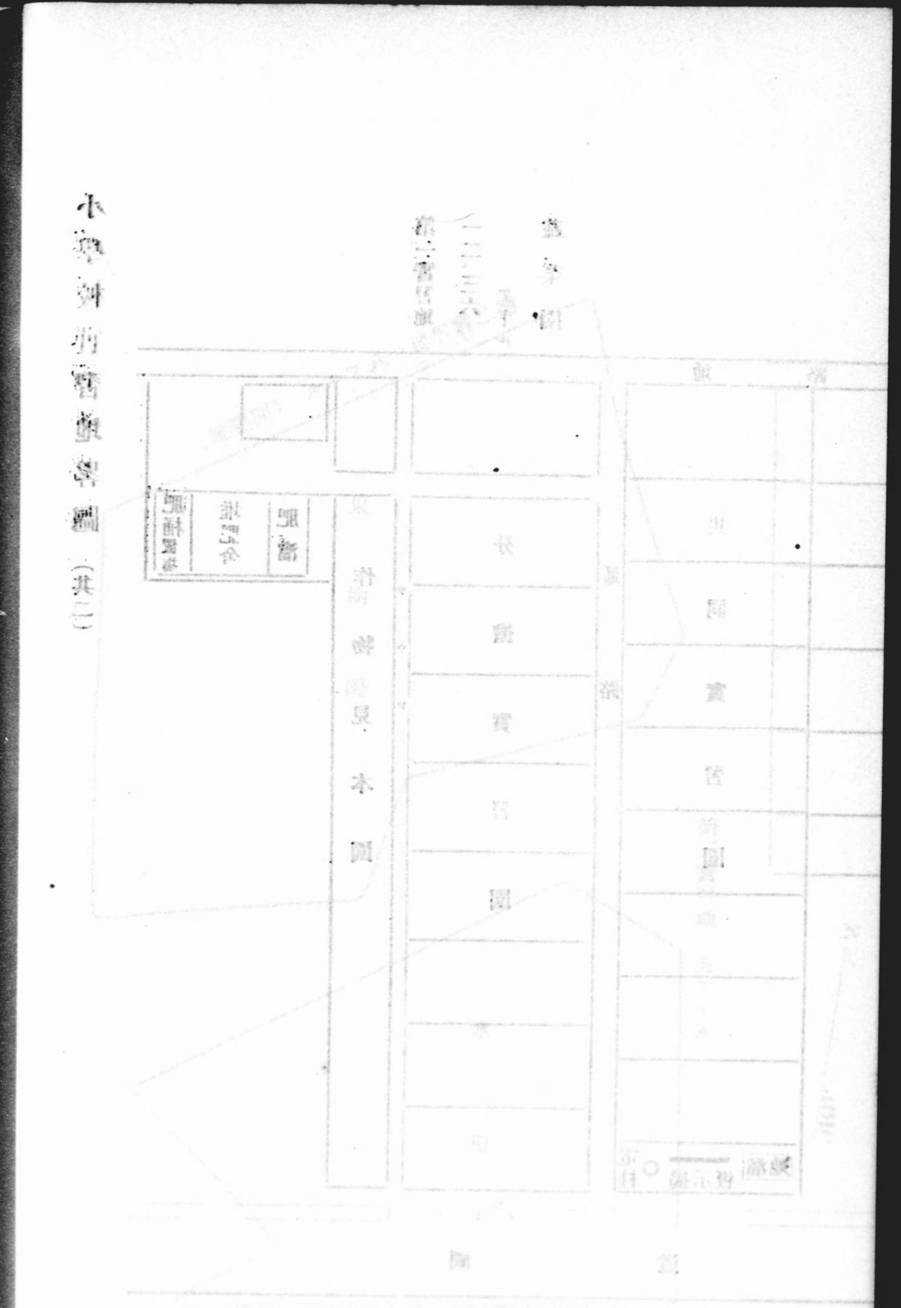
二、農業科經營の方針

農村の兒童には低學年の時から學校園地の一片なりとを與へこれに草花、蔬菜等の植物を栽培せしめて一輪の花、一株の野菜を作り出さすの樂しさを体驗せしめ、早くから土に親しましめ植物栽培の興味と農業に對する趣味とを喚起して農業研究の素地を培ひ更に進んで農業科を課するに及んでは學習上幾多の体驗により農業經營をなさしめ之によつて公民的訓練、勤勞的精神の涵養を圖りたいものである。

三、農業教育系統

尋常小學校 ―― 農業趣味の養成
- 植物愛護
  - 學級園（尋一―尋六）土に親しましめる
  - 鉢栽培＝朝顏、菊、草花
- 動物愛護　勤勉利用
  - 養魚＝雜魚、金魚、鮒、鯉（尋四以下）
  - 養兎＝アンゴラ、メリケン（尋五、六）

農村趣味の助長
學校の家庭化
鄉土の調査
普通教育の農村化



- 我が校の農業教育
  - 高等小學校
    - 勤勉利用經濟思想の發達
    - 校
      - 家庭の農園化（校地、空地の利用、農村學校氣分）
      - はす池、苺畑、花壇、竹林、林樹園
      - 實習地（實習農園、果樹園）（試作田）
      - 試食會
      - 慰勞會
      - 實習施設
        - 有畜農場（牛舍、豚舍、緬羊舍、山羊舍、兎舍、鷄舍、堆肥舍、農具室、作業室、物置）
        - 家庭實習（種苗の配布、指導、品評會）
        - 少年團部（巡視、家庭との連絡）
        - 落實習
        - 其他實習（螟虫驅除、村有苗圃の除草）
        - 氣象觀測「天氣豫報」
  - 青年學校
    - 自給自足の体驗体得
    - 指導の徹底改良の中心（有畜農場、實習地施設）
    - 農家一戶の實際的經營
    - 各種改良事項の實施＝家庭實習地
    - 部落實習

農業教育＝學校中心

農村學校氣分の助長＝農村的色彩を十二分に帶はしむ

職員の農業趣味養成と知識技能の收得

- 鄉土の農業調査（鄉土の農業）（教授資料）
- 農業教授の鄉土化
- 農業科
  - 農業教授の徹底（知識技能の收得）（農業趣味の助長）（勤勉利用精神の養成）
  - 教授細目の調成
  - 實習指導要項調成
  - 實習配當簿の作成
  - 作付豫定一覽表の作成

鄉土の根本的調査

教授要目の完成

實際的農業教授

村の農事試驗場

教師の修養

研究氣分の養成

四、農業實習を中心としたる實際的施設

(1) 實習地の面積

（イ）畑　第一實習地（農習農園、蔬菜園）　一二、三六アール

仝　第二實習地（開墾地、果樹園）　八、〇〇アール

（ロ）田　第三實習地（試作田）　五、〇〇アール

（ハ）花壇　四、八〇アール

計　三〇、一六アール

(2) 實習地の區分

（イ）分擔實習園

1　研究分擔園＝數名を一組とし組長を置き各組にて各種作物を同一に栽培し研究せしむ

2　自由分擔園＝兒童の自由に任せ希望作物を栽培せしめ相談相手となる

（ロ）共同實習園＝土地に適する優良なる各作物を共力一致して栽培研究せしむ

（ハ）作物見本園＝教科書にある各作物を見本的に栽培實驗材料となす

（ニ）果樹園＝柿、栗の各品種を栽樹、剪定、整枝の方式を知らしむ

（ホ）試作田＝重要作物たる稻の品種試驗增收試驗、栽培研究をなす

（ヘ）林樹園＝各樹木の手入、椎茸栽培地に利用

（ト）竹林＝苦竹の栽植手入（竹の使用）

（チ）桑　園＝桑樹の手入（青年學校と兼用）
（リ）苗　圃＝各種苗の仕立、温床栽培及温床利用（青年學校兼用）
（ヌ）花　壇＝花卉類の栽培、觀賞用教材、理科教材

(3) 實習用建物（青年學校と兼用）

一	堆肥舍	一	四坪	八	鷄　舍
二	肥　溜	三	二坪	九	事務兼圖書室
三	牛　舍	一	三坪	一〇	研究室
四	緬羊舍	二	三坪	一一	作業室武道場
五	山羊舍	二	四坪	一二	農具室
六	兎　舍	一	二坪	一三	物　置
七	豚　舍	三	五坪	一四	貯藏庫

(4) 實習用具（仝　上）

一	鍬	二五	九	杓　柄	三
二	備中鍬	六	一〇	擔　棒	九
三	唐　鍬	七	一一	除草器	一
四	唐　鶴	八	一二	稻扱器	一
五	鋤	一	一三	篩	一

六	移植鍬	二〇	二六	土　篩	四
七	草　掻	二	二九	藤　箕	五
八	ショベル	五	三〇	蓆	五〇
九	ホーク	二	三一	四ヶ目籠	一〇
一〇	鋤　簾	二	三二	間　縄	（五〇米）
一一	鎌	一〇	三三	畚	二
一二	噴霧器	一	三四	枡	五
一三	如　露	五	三五	臺　秤	一
一四	剪定鋏	一	三六	秤	一
一五	木　鋏	一	三七	箒	一〇
一六	鋏	二	三八	植木鉢	三〇〇
一七	剪毛用鋏	三	三九	俵編器	四
一八	小　刀	一	四〇	押　切	一
一九	砥　石	二	四一	藁切器	二
二〇	鋸　大小	二	四二	槌	二
二一	鉈	一	四三	石油罐	五
二三	肥　桶	七	四四	運搬車	一

四五	販賣車	一	五三	昆虫飼育箱	一		
四六	去勢器	一	五四	誘蛾燈	一		
四七	益虫保護器	一	五五	製筵器	一		
四八	バケツ	一五	五六	金槌	一		
四九	飼料箱	二	五七	毛釘抜	一		
五〇	寒暖計	一	五八	給餌器	二七		
五一	地中寒暖計	一	五九	給水器	四		
五二	育雛用寒暖計	一	六〇	立札	九〇		

農業用備品

一、	圖書	二〇〇冊					
二、	掛圖	八〇枚					
三、	模型	五					
四、	標本	一五〇					
五、	藥品	九					

種別	頭羽數	品種名號	性別	生年月日	血統	産地	擔當者
牛	一	改良和牛 森山號	牡	昭和九年六月五日	父 森本號 母 片山號	土岐實業學校	高二男
豚	八	ヨークシャー雜種 紅葉號	牝	九年十一月十三日	父 高農ヨークシャー 母 高農ヨークシャー	土岐實業學校	青年學校
		ヨークシャー末廣二號	牝	十年五月四日	父 ヨークシャー未廣 母 ヨークシャー駒鳥	種畜場	高一男
		ヨークシャー竹二號	牡	十年五月十日	父 ヨークシャー淡雪 母 ヨークシャー竹號	種畜場	青年學校
		ヨークシャー	牡二 牝三	十一年九月十八日	父 竹二號 母 末廣二號	本校	
緬羊	二	コリデール 瀧吟號	牡	十年三月二十六日	父 農林省コリデール 母 福島縣コリデール	土岐郡瑞浪町	高二男
		コリデール 白狐號	牝	十年五月六日	父 農林省コリデール 母 三濃村コリデール	惠那郡三濃村	青年學校
山羊	二	ザーネン 御影號	牡	九年四月十日	父 惠那郡武並ザーネン 母 本村ザーネン	本村	尋五、六
		ザーネン 花木號	牝	十年四月八日	父 惠那郡武並ザーネン 母 本村ザーネン	本校	尋五、六
兎	一六	メリケン	牡牝			本校	
		アンゴラ	牡牝			本校	
			一一				
			七七				

五、農業實習指導概要

(1) 實習指導法

(イ) 始業…號令によつて農場に直ちに整列、級長の指揮にて脫帽敬禮をなさしむ。
(ロ) 實習配當…豫め記入しある實習配當簿を管理當番をして掲示板に書かしめ實習配當、實習上の說明をなす
この際各自の服裝檢閱。
(ハ) 實習中…敎師示範、個人指導をなし時によりては全兒童に注意示敎す。
(ニ) 終了…農具を清潔にし農場當番の檢查をうけて農具室に整然と納め、後始末を完了せし後元の位置に集合せしめ講評並に注意をして終了。

(2) 實習指導上の注意

(イ) 作物は常に優良なる成績を得る樣努力すること。
(ロ) 常に集約的取扱をなして、一つの雜草と雖も根絕せしむること。
(ハ) 如何なる小區劃と雖も整然として實習地全体をして秩序あるごとくすること。
(ニ) 標札、立札を設け播種又は植付年月日を標示すること。
(ホ) 農場收穫物は敎育的に處理すること。

(3) 栽培實習

(イ) 作物…各種作物を多數集めて栽培し性狀を常に觀察せしめ尙敎材との關係を深くし作物觀念を明瞭ならしむ
(ロ) 蔬菜…農家の實狀と氣候土質とに鑑み蔬菜を間斷なく栽培し土地利用を主とし生產物は販賣實習をなし收支を明にす。
(ハ) 果樹…果樹中本村に重要なる柿、栗、胡桃を定植し肥培管理の實習場とす。
(ニ) 温床…兒童と共に製材より製材屑を購入、温床七框を設けて半促成栽培をなしこれが体驗を得しめ、苗は兒童に配布し家庭實習地にて栽培、其の他は販賣用學校試作用とし自給自足の出來得る樣努力してゐる。
又一面に於て温床利用として現在は抑制胡瓜の栽培をなせり。
苗床…蔬菜苗、花卉苗を仕立つ。
(ホ) 花卉鉢栽培…花卉に對する趣味の養成と栽培法の研究をなさしむる爲め各種の花卉及朝顏　菊の鉢栽培をなさしむ。

實習地作付豫定表（其一）（昭和十一年度春作）

第一實習地
一二、三六 アール

（見本園）

油菜

（分擔園）

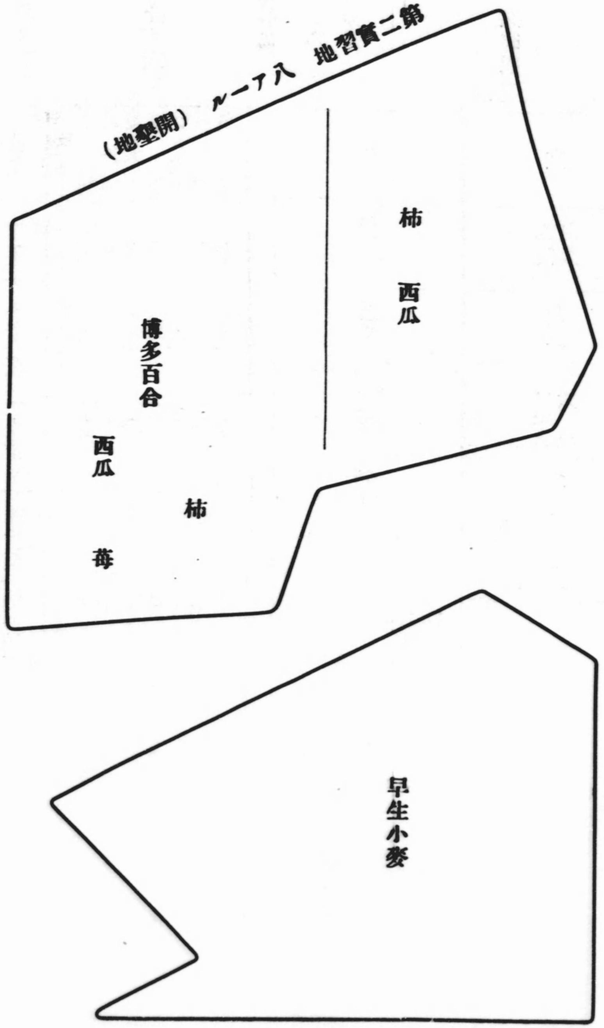
葱	馬鈴薯	夏大根	甘藍	白菜

（共同園）

葱	甘藍	土當歸	龍舌菜	龍舌菜	玉蜀黍	飼料用玉蜀黍	畑山葵、露
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝
仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝	仝

葱	甘藍	土當歸	龍舌菜	龍舌菜	玉蜀黍	飼料用玉蜀黍	畑山葵、露
春播白菜	甘藍大根						
胡瓜	水菜						
二年大根子	甘藍						
牛蒡	菜豆						
薑	菜豆						
	葱						
	里芋						
	菊						

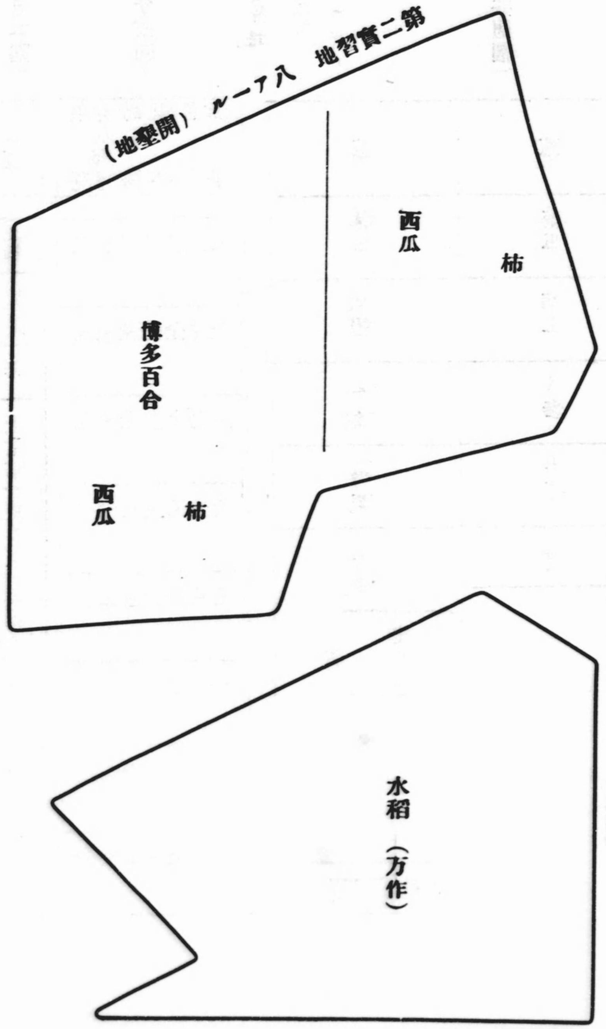
電柱 ○ 揭示板 ═══ 溜池



（其二）

（夏作）

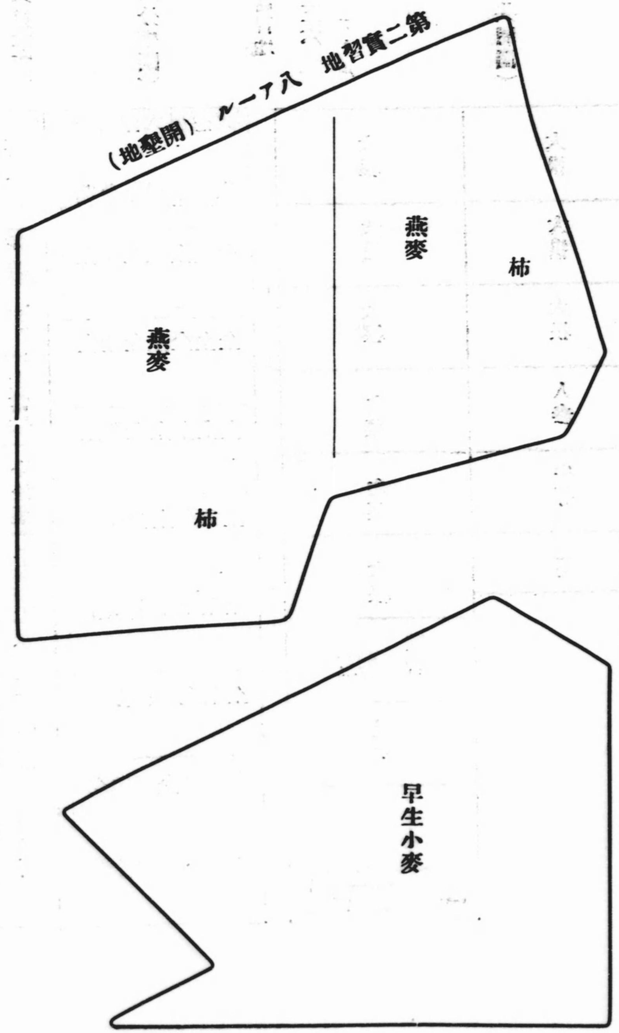
（見本園）	（分擔園）	第一實習地 一二、三六アール	（共同園）
大豆	菜豆 青刈大豆 馬鈴薯 里芋 蕃茄 茄子	葱	葱
薑	仝仝仝仝仝仝仝	南瓜	南瓜
山牛蒡	仝仝仝仝仝仝仝	大豆	胡瓜
苺	仝仝仝仝仝仝仝	時無大根	人參
土當歸	仝仝仝仝仝仝仝	金時菜豆	牛蒡
龍舌菜	仝仝仝仝仝仝仝	尺五菜豆	薑
玉蜀黍	仝仝仝仝仝仝仝	葱 龍舌菜	
飼料用玉蜀黍	仝仝仝仝仝仝仝	里芋	
蜀黍	仝仝仝仝仝仝仝	菊	
山葵	仝仝仝仝仝仝仝	電柱 ○ 掲示板 溜池	



第一實習地　一二、三六アール

（其三）（秋作）

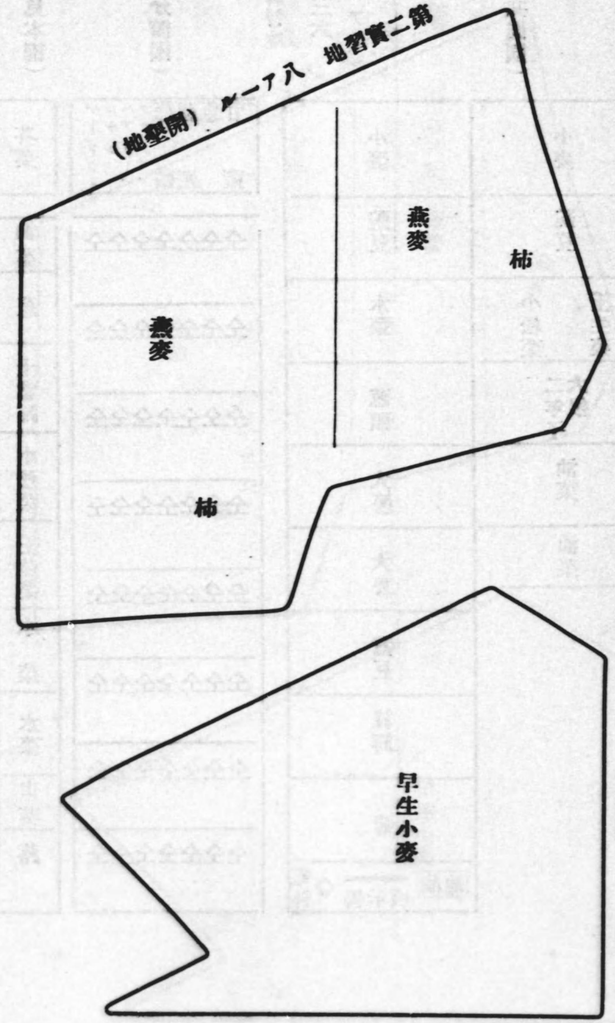
（見本園）	（分擔園）	（共同園）
芥菜	白菜 白菜 体菜 大根 里芋 葱 大根	大根
柴蘇	仝仝仝仝仝仝仝	大根
葱	仝仝仝仝仝仝仝	大根
土當歸	仝仝仝仝仝仝仝	人參
小松菜	仝仝仝仝仝仝仝	牛蒡
壬生菜	仝仝仝仝仝仝仝	薑
水菜	仝仝仝仝仝仝仝	大根
蜀黍	仝仝仝仝仝仝仝	葱 龍舌菜
山葵	仝仝仝仝仝仝仝	里芋
蕗	仝仝仝仝仝仝仝	菊 里芋
		電柱 ○ 掲示板 溜池



第三實習地 五アール〔水田〕

（其四）（冬作）

（見本園）	（分擔園）	第一實習地 一二、三六アール	（共同園）
芥菜	ザートウイツケン ヘアリーベツチ 葱頭 葱頭 葱頭 甘藍	小麥	小麥
油菜	仝仝仝仝仝仝仝	豌豆	豌豆
葱	仝仝仝仝仝仝仝	水菜	小松菜 壬生菜
土當歸	仝仝仝仝仝仝仝	葱頭	二年子大根
小松菜	仝仝仝仝仝仝仝	大麥	油菜
壬生菜	仝仝仝仝仝仝仝	大麥	油菜
水菜	仝仝仝仝仝仝仝	蠶豆	
水菜	仝仝仝仝仝仝仝	綠餌	
山葵	仝仝仝仝仝仝仝	菊	
蕗	仝仝仝仝仝仝仝	電柱 ○ 掲示板 溜池	



5　販賣實習　農業に於ては生産技術に次で最も大切なるは販賣方法である。販賣は農業經濟の基礎となるものであるから小學校時代より周到な指導が必要である、我が校に於ても之れが体驗を得しめ經濟思想の養成の爲め生産物の販賣實習を行つてゐる

イ、販賣そのことになれしむ。

ロ、僅かな金も如何に數多の勞力によつて得られるかをさとらしむ。

ハ、農作物の時價狀態、記帳練習

6　畜産實習　家畜禽を飼育せしむる事によつて兒童は不知不識の間に慈愛の念を啓培し動物愛護の情を起さしむ尙農業經營上如何に主要なるかを知らしむ。

イ、採草（草刈）

ロ、飼料集め及び煮沸　旅館、肉屋、豆腐屋其の他商店に依頼し廢滓物を貰ひ受け煮沸して飼料となす。

ハ、飼料購入（組合其他）

ニ、家畜禽の飼育……給餌、運動、手入

ホ、仔畜禽の手入

ヘ、畜禽舍の消毒

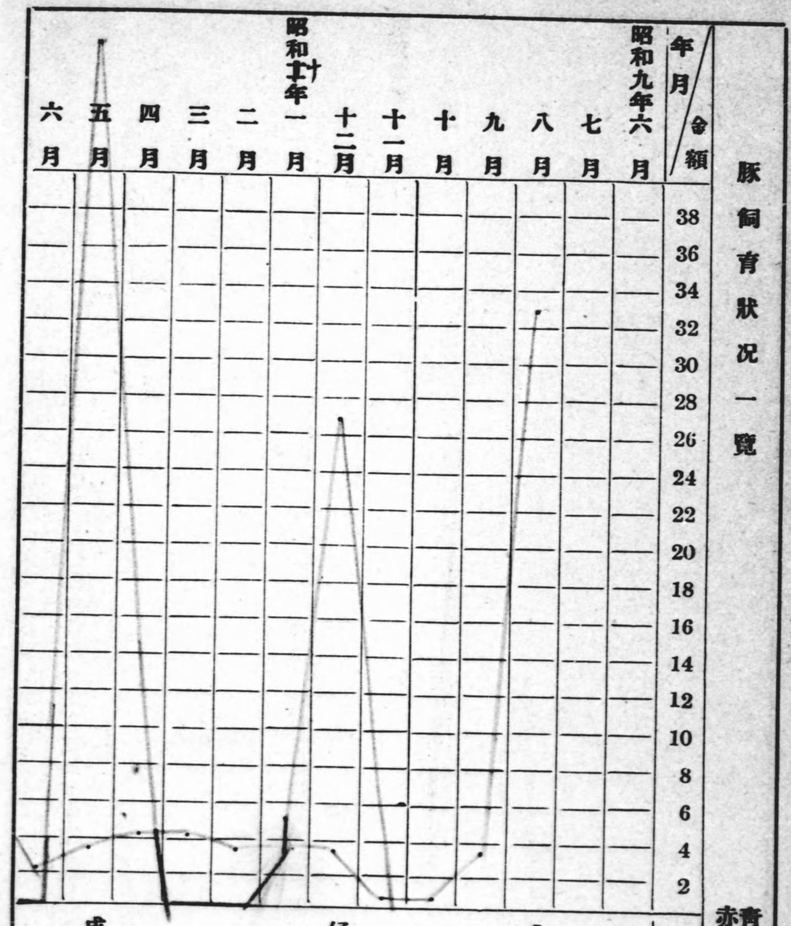
ト、厩肥搬出、積込、切替

チ、剪毛（アンゴラ兎）

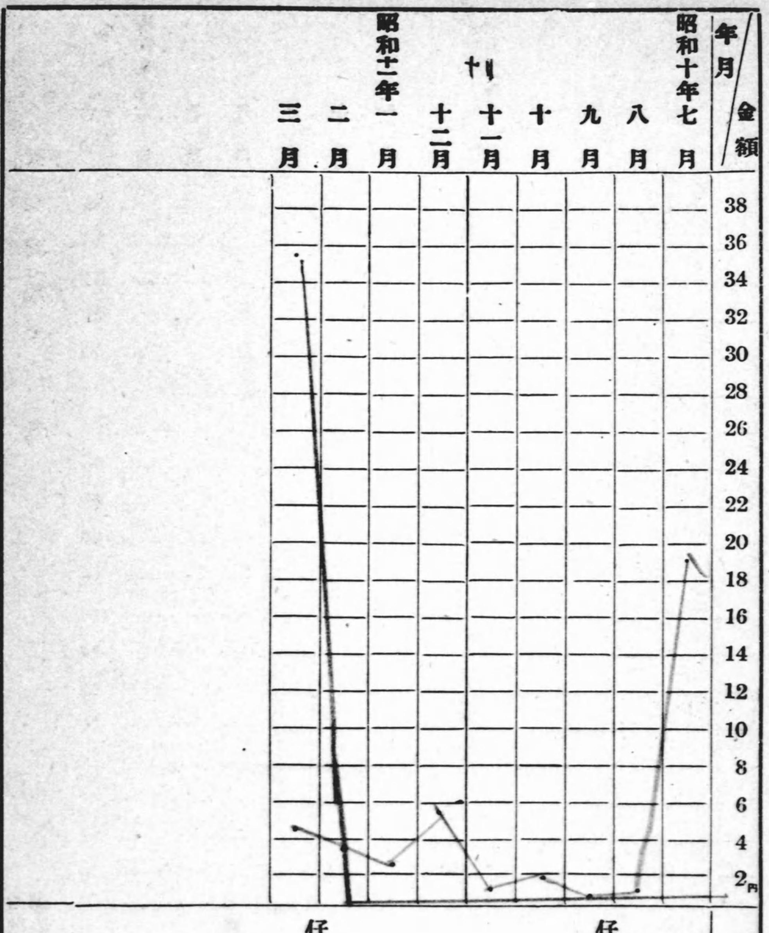
リ、採卵、美化、出荷

豚飼育狀況一覽

青線 —— 收入額
赤線 —— 支出額



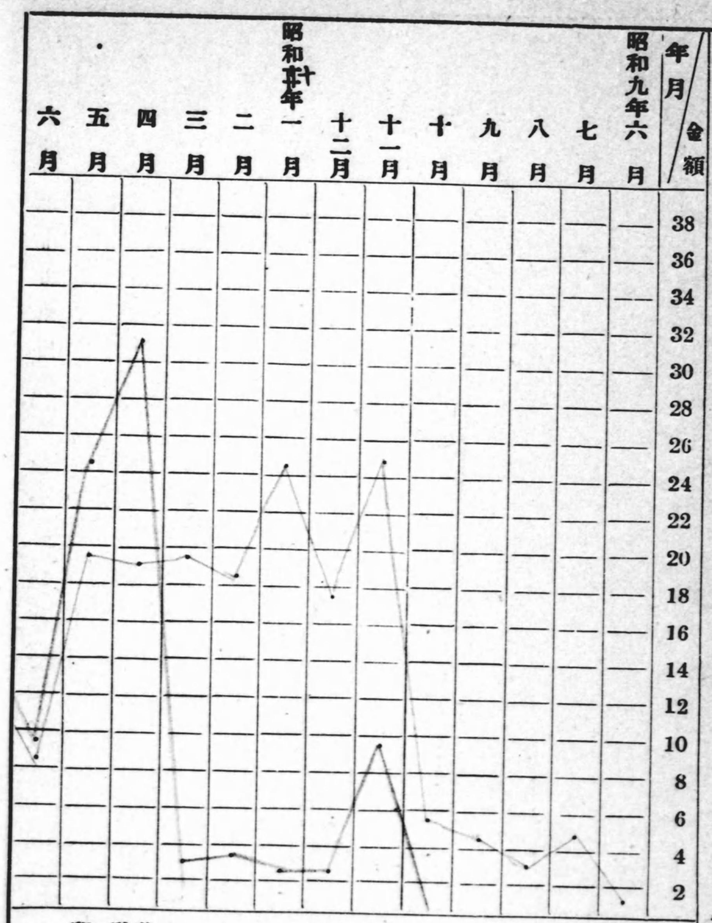
年月	備考
昭和九年六月	
七月	
八月	成豚一頭購入（岐阜高農ヨリ）
九月	
十月	
十一月	
十二月	仔豚賣却（村内農家へ）
昭和十年一月	
二月	
三月	
四月	
五月	
六月	成豚賣却（商人へ）



年月	備考
昭和十年七月	
八月	
九月	
十月	
十一月	
十二月	仔豚二頭購入（縣種畜場ヨリ）
昭和十一年一月	
二月	
三月	仔豚五頭賣却（村内農家）

鷄飼育狀況一覽

青線——收入額
赤線——支出額



備考

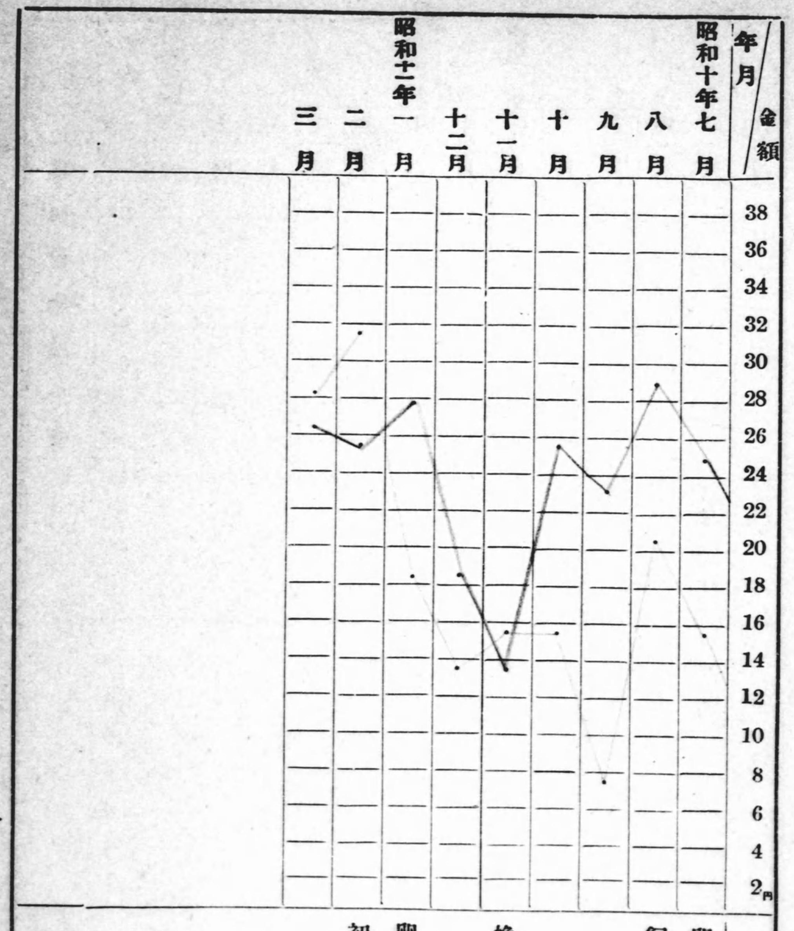
初生雛二十羽寄贈ヲ受ク

種畜場ヨリ初生雛一五〇羽購入

組合ヨリ種鷄補助

若雄賣却代並ニ種畜場ヨリ種鷄補助

卵並廢鷄代



備考

卵代金

飼料代金

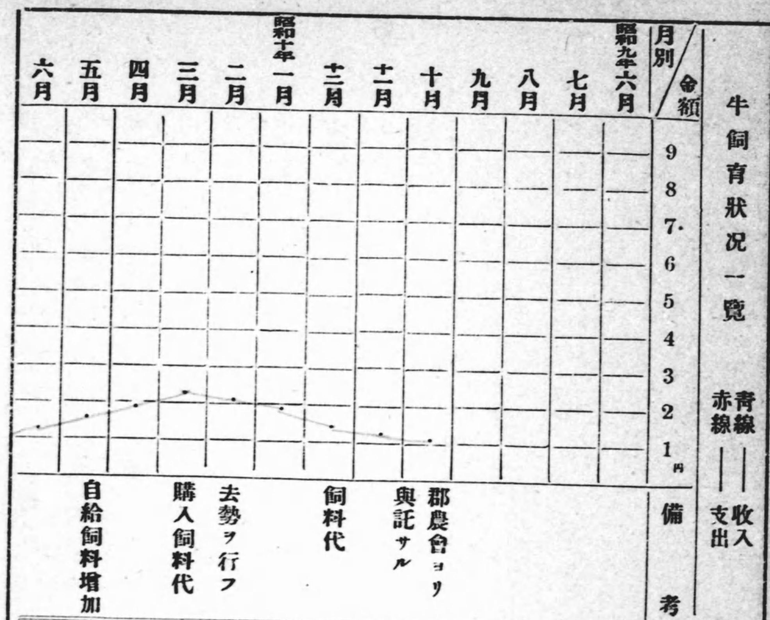
換羽期

卵代金

初生雛一〇〇羽購入

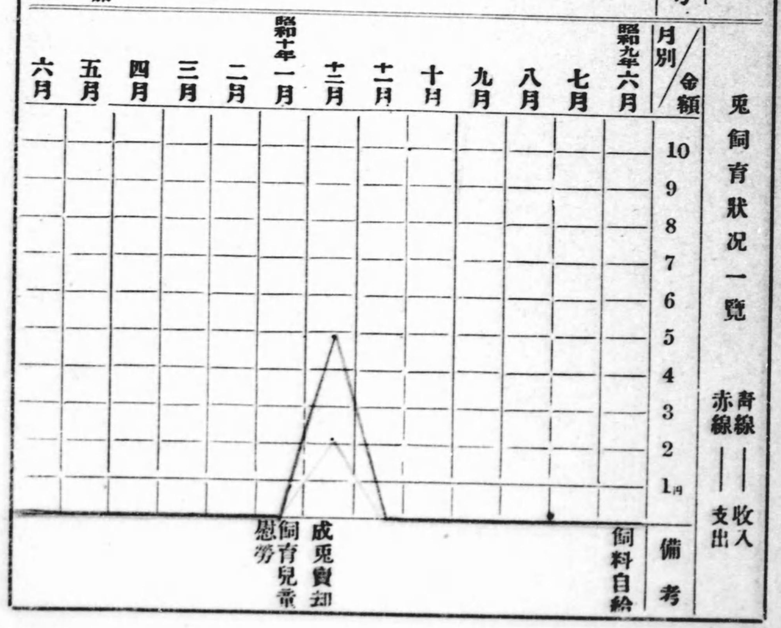
牛飼育狀況一覽

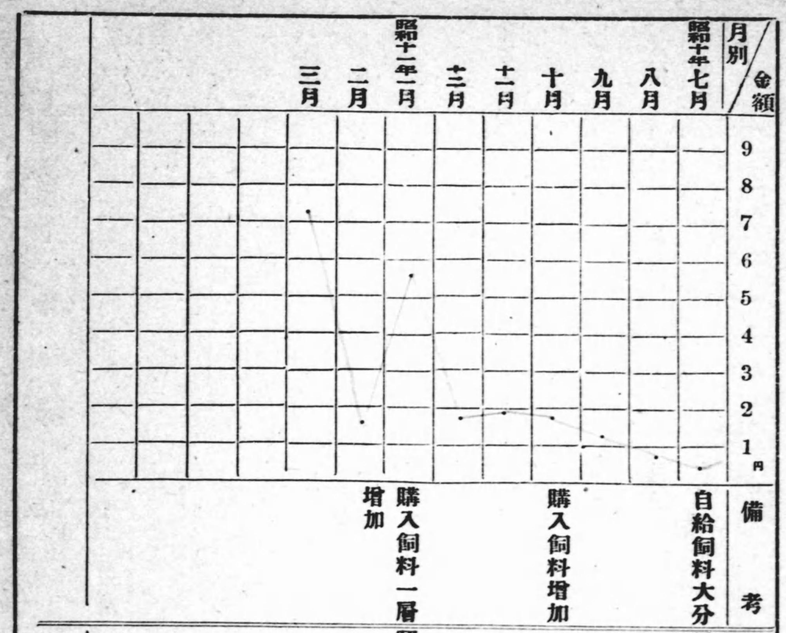
青線——收入
赤線——支出

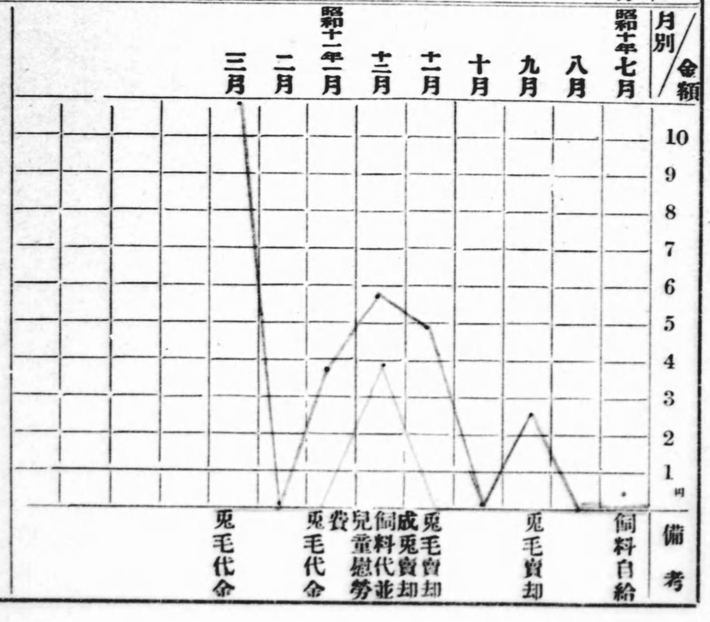


兎飼育狀況一覽

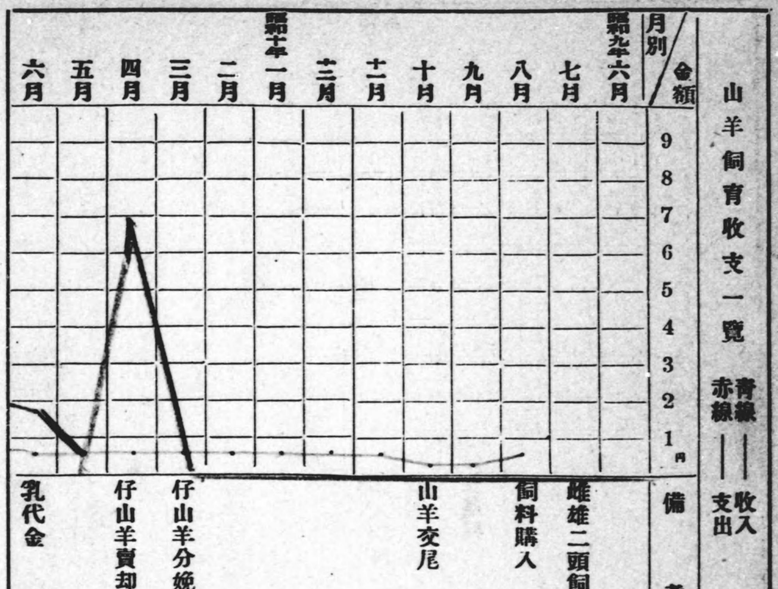
青線——收入
赤線——支出



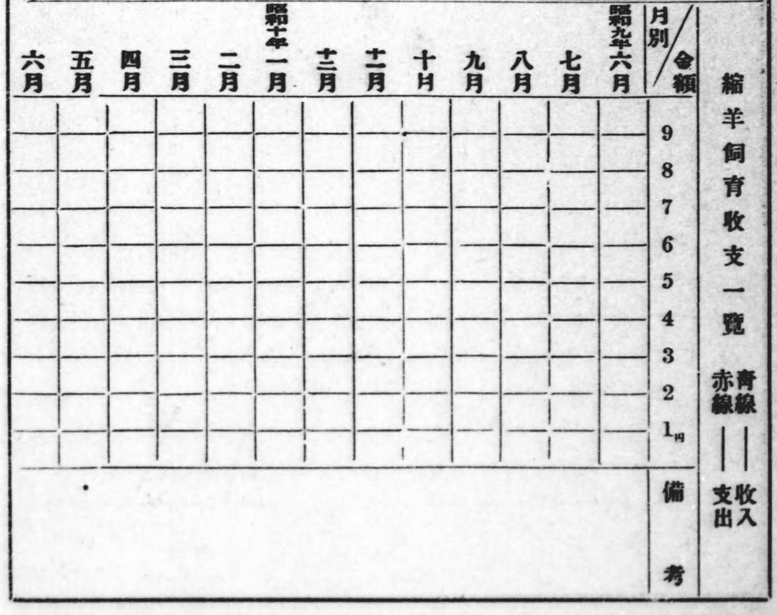


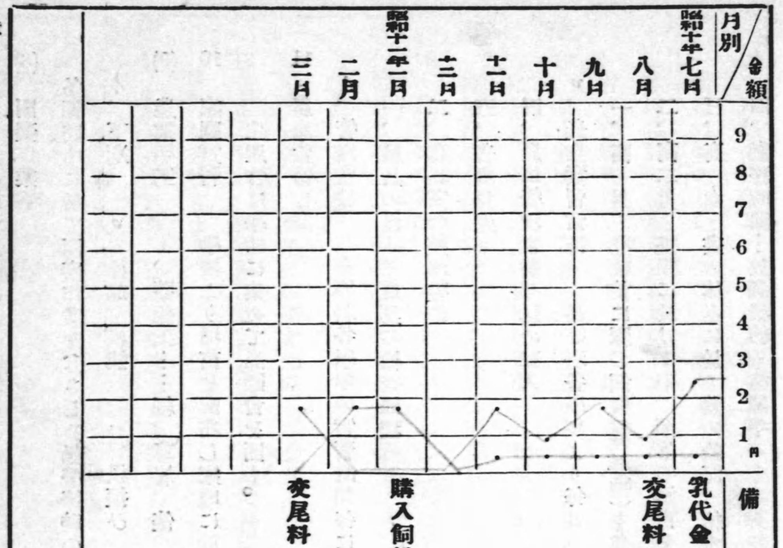


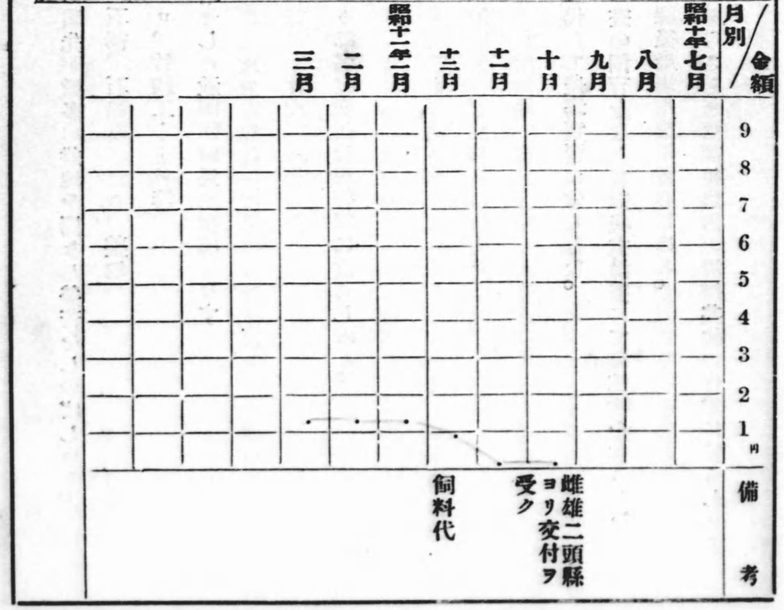
山羊飼育收支一覽　青線——收入　赤線——支出



縮羊飼育收支一覽　青線——收入　赤線——支出







(8) 開墾作業

多期間中に於て開墾作業をなさしめ勤勞精神の養成と祖先が數多の耕地を開きし勞苦をしのばしめる。

イ、下刈　ロ、株起、根抜　ハ、根振ひ　ニ、石割、石積み　ホ、整地

(9) 農業手工　イ、藁細工……繩、草履、俵、叺　ロ、竹細工……竹等

10 家庭實習　學校より種苗を配布し家庭に於て栽培せしめ教師隨時巡廻指導をなす

生産物は學校に集めて品評會を開く。

11 農場當番作業

イ、管理當番　高等科各學年の實習時間毎に各組より二名宛交代農場管理に當らしむる。

一、農具の出入、農具の檢査修理

二、農具室の整理整頓

三、農場見廻り

四、農場管理當番日誌の記入

ロ、農業實習當番　高等科各學年より毎日一組宛交代して農場實習に當らしむ。

一、高一男…登校前に豚の飼料(殘滓物)を集めしめ晝の飼育をなし放課後養沸釜にて殘滓物を煮さしむ。

二、高二男…晝間に於ける牛、緬羊の飼育をなし放課後農場作業に當らしめる。

三、高　女…晝の休みに於て鷄の給餌、給水、採卵をなさしめ放課後場内の清掃其他の作業に當らしめる。

四、勤務時間…放課後約一時間半

12 休暇中の作業　學校農場の非常時は休暇中である、高温多濕にて、いやが上にも雜草繁茂し除草、收穫、販賣に寸暇もない。其の上一食も與へずしてをけぬ家畜禽を管理せねばならぬ。

本校に於ては農業科敎員は勿論、農場實習當番が休暇中といへども各學級より一組宛毎日午前七時半登校畜禽飼育、作物管理等をなし午前十時家庭に歸ることゝなつてゐる。

13 螟虫驅除　農場一隅に誘蛾燈を設け發生狀況を調査し發生の最も多き時期（六月中旬）を見計ひ高等科兒童は勿論、尋五以上の兒童を部落別に配當、職員各部落に分擔出張、苗代に於ける螟虫卵及蛾を採取捕獲せしめ學校に持寄り統計調査をなし益虫保護器に入れ寄生蜂の保護をし螟虫驅除の重大性を知らしむ。

14 農産物品評會　每年十二月行はるゝ村農會及青年學校主催の農産物品評會には小學校兒童が家庭に於て栽培したるも、或は學校實習地の生産物を出品せしめて優秀なるものには賞狀や賞品（學用品）を與へ指導奬勵の一助としてゐる。

15 試食會　農場生産物を隨時に試食せしめむ。材料西瓜、甘藷、蕃茄、苺

16 慰勞會　田植終了後(田植祝)と稻刈取後(收穫祝)の二回兒童職員一同慰勞の會を催す。材料は主として農場生産物による。

17 農場收支計算（昭和十年度分青年學校合算）

イ、耕種の部

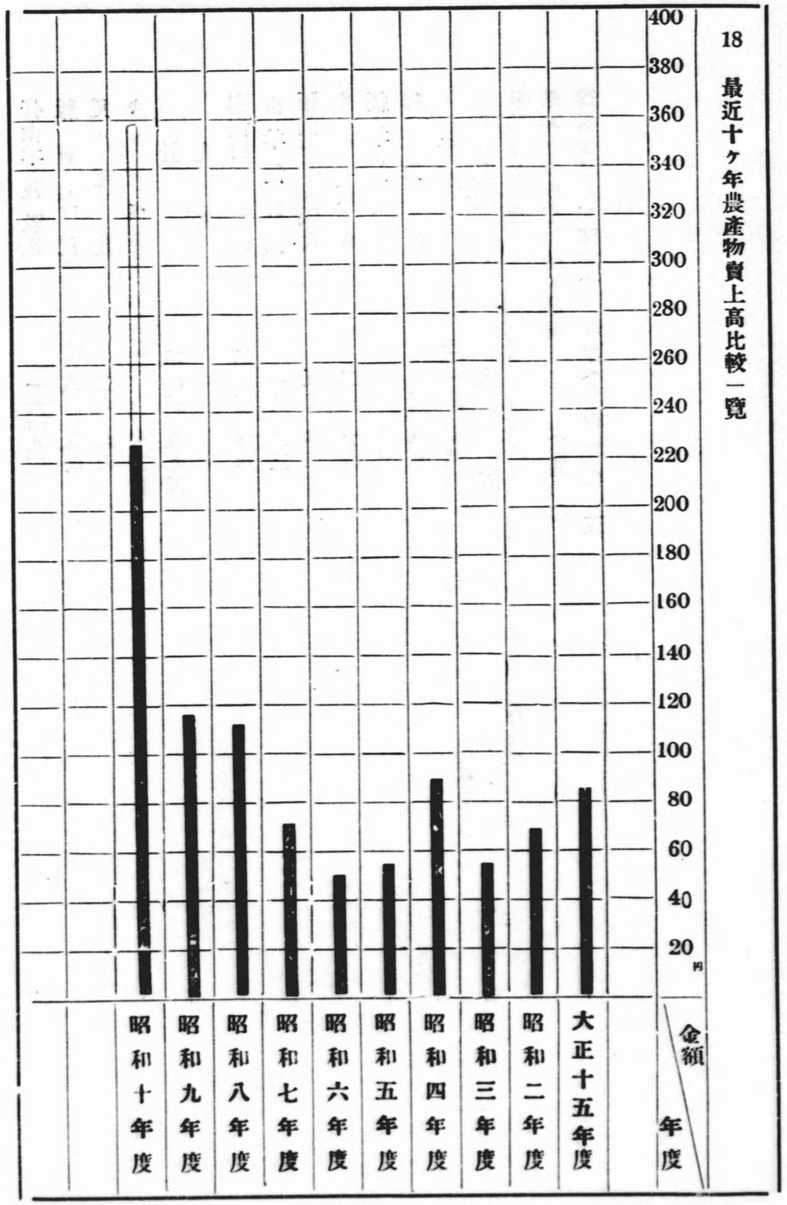
收入

種類	一八一四一〇

蔬菜類	一七二四〇〇
果實類	三、〇〇〇
花卉類	三、二五
計	三五九、三五
支出	
肥料代	一、三六
種子及種芋代	一七、六〇
柿苗代	一五、一二
借地料	一八六、一〇
防虫網代	五、三六
藥品代	〇、八五
材料代	三、四九
雜費	九、二九
農具修繕費	一、六四
計	二四〇、八一
差引收益金	一一八、五四
收益金の處理	
實習基金として積立	一〇〇圓〇〇
豫備金として昭和十一年度へ	一八、五四
ロ、畜産の部	
收入（肥料換算價格は算入せず）	
鷄（卵及廢鷄販賣）	二七八、三八

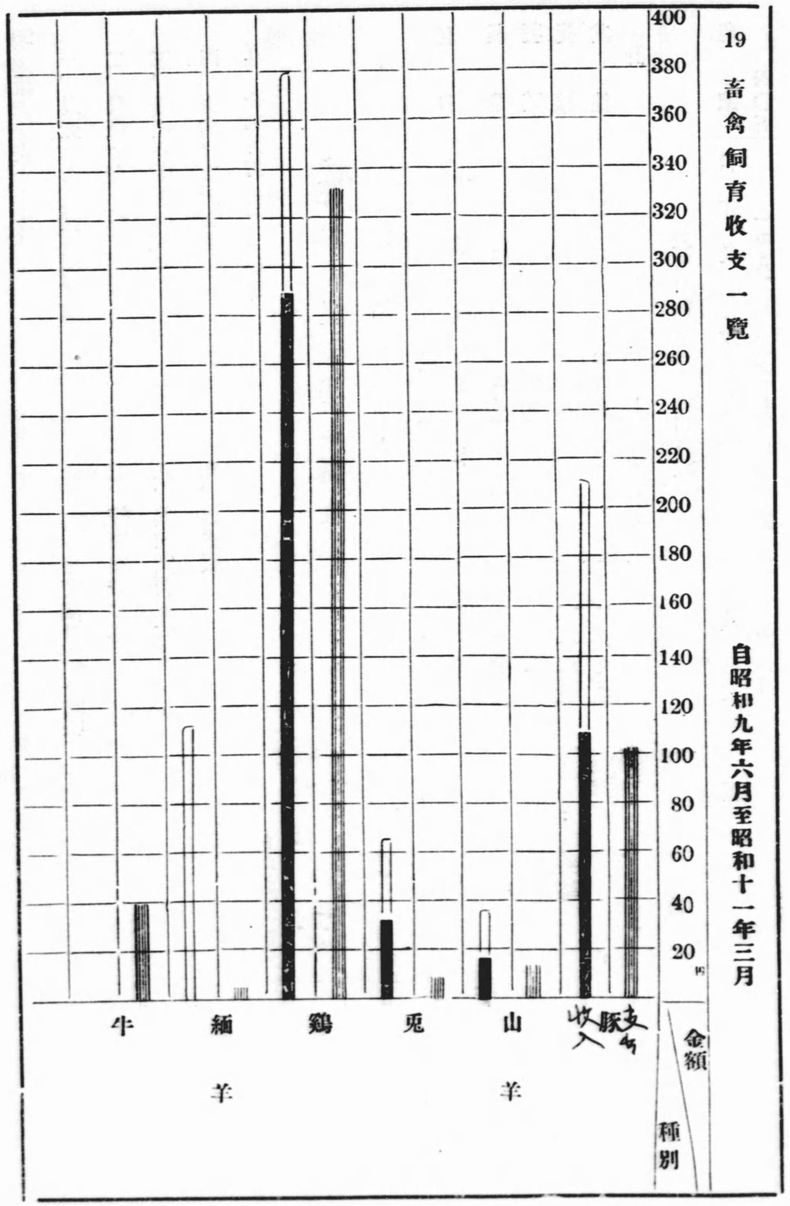
仔山羊及乳代	一六四八三
豚實却代	八〇、九〇
兎毛皮	二六、六六
キヤンペル	〇、八二五
計	四〇三、五九五
支出	
鷄飼料及雜代	二一三、四八
山羊飼料代	一二、二三
豚飼料及種豚代	五二、六二
牛飼料代	二六、五五
緬羊飼料代	三、八五
種兎代	三、八五
計	三一二、五八
差引收益金	九一、〇一五
收益金の處理	
昭和九年度迄の缺損補塡	五〇圓〇〇
豫備金として昭和十一年度へ	四一、〇一五

18 最近十ヶ年農産物賣上高比較一覽



19 畜禽飼育收支一覽

自昭和九年六月至昭和十一年三月



諸表簿

一、農産物實上預金明細簿
二、農産物實上帳
三、農産物販實記入簿
四、畜禽收支計算簿
五、各家畜禽收支明細簿
六、鷄卵出荷飼料購入覺帳
七、管理當番日誌
八、農業實習配當簿
九、雜書綴

鄉土の農業基本調査

職業別戸數及人口

種別	戸數		人口		備考
	本業	副業	本業	副業	
農業	四〇五	四八	二、五三一	二七一	
養鷄	一	二二九	一	九六二	
養蠶	一	二〇五	一	一、一八四	
其他	二二六	四六九	一、二一〇	一、八九三	
計	六三一	一	三、七四一	一	

農家戸數及自小作別戸數

農家	自作農	自作兼小作農	小作農	計	備考
四〇五	一四八	二一七	四〇	四〇五	

耕地其他地目別面積

地目別	反別	備考
田	二〇二町七	合計反別
畑	五二、七	二五五、四
山林	二、四四一、四	二、四五六、三
原野	一四、九	
宅地	二五、三	二六、〇
其他	〇、七	
計	二、七三七、七	二、七三七、七

農家の規模

種別	五反歩未滿	五反歩以上一町歩以上	三町歩以上五町歩以上	備考
耕地所有別	三三五	八五	四	二
耕地使用別	二五一	一五四	二	一

農家一戸平均耕地段別及自小作段別

種別	田	畑	計
自作地	一三二町三	三六町八	一六九町一
小作地	七〇町三	一五、九	八六、〇
合計	二〇二町六	五二、七	二五五、三
農家一戸平均反別	五反 畝	一反三畝〇三	六反三畝〇三

最近三ヶ年畜禽飼育數

種別	昭和八年度 飼育戸數	昭和八年度 頭羽數	昭和九年度 飼育戸數	昭和九年度 頭羽數	昭和十年度 飼育戸數	昭和十年度 頭羽數	備考
牛	二八	二八	三四	三四	四三	四六	
馬	五五	五五	四八	四八	四七	四七	
豚	一〇	一四	一二	一八	二六	四六	
山羊	三	五	一六	二〇	二一	二九	
緬羊	—	—	—	—	—	二	
鷄	二三三	九五八三	二二九	一一、二六六	二〇八	一一、九四八	
鶩	一一	二七	一一	二八	一二	三五	
キャンベル	四	二五	五	三〇	二	一一	
兎	一二〇	三五九	一二五	四五九	一三〇	九一六	
蜜蜂	一	七箱	一	八	二	五	

牛馬用途別頭數

種別	搾乳用	農耕用	運搬用	藩殖用	其他
牛	四	一八	二四	—	—
馬	—	一五	三〇	—	二

昭和十年度農作物收穫高一覽表

種別	收穫高	價格	備考
水稻	石 三、五一六	八八、二四四四	
陸稻	〃 三	六六四	
大麥	〃 五〇六	六、〇七五四	
小麥	〃 四二〇	六、三〇〇	
蕓薹	〃 〇、八	一二	
大豆	〃 三六	六四八	
小豆	〃 一〇	二〇〇	
粟	〃 一、五	一五	
玉蜀黍	〃 三	二四	
	〃 三	三〇	
甘藷	貫 九、六六〇	一、四四九	
馬鈴薯	〃 二七〇	二四三	
大角豆	石 一、八	二七	
苺	貫 二〇	二六	
食用百合	〃 六四	三二	
藩椒	〃 一五	八	
生薑	〃 九〇	二七	
胡麻	石 一	三五	
糸瓜	個 二六〇	一三	
蒟蒻芋	貫 一五〇	五二	
豌豆	石 一〇	一五〇	
蠶豆	〃 九	九〇	
菜豆	〃 二	三六	
胡瓜	貫 九二四	一八七	
越瓜	貫 一六五	三三	
南瓜	〃 一、二〇二	一八一	
西瓜	〃 一、二五〇	一八七	
胡瓜	〃 一三八	二八	
茄子	〃 四、六七〇	四七〇	
藩茄	〃 一、二〇〇	二四〇	
花百合	〃 三八五	五八	
生大根	〃 三五、〇四五	一、二五二	
切干大根	〃 二一三	五三	
蕪菁	〃 二、六二〇	一三一	
人參	〃 三一八	六四	
牛蒡	〃 九四二	一八八	
里芋	〃 六、二六二	九三九	
葱	〃 八〇一	一七〇	
葱頭	〃 五七三	八五	
杏	石 〇、五	八	
李	〃 三、五	二四	
無花果	貫 一六	五	
棗	石 二	一八	
梅	〃 一七	一五三	
桃	貫 四四	一八	
櫻桃	〃 一	五	

種別	收穫高	價格	備考		
枇杷	貫 三	二	干柿	貫 六〇二	四二一
梨	〃 四七	九	葡萄	〃 二一七	八七
生柿	〃 二、〇五八	五一四	煎茶	〃 二五	一二五
			番茶	〃 四三	三〇

村内耕地土性一覽

調査番號	字名	地目	表土	底土ノ狀態
1	八伏	桑園	黃褐色 砂土	一尺二三寸…一尺四五寸位ノ下層ハ黑色腐植質埴土
2	前田	水田	褐色 砂質壤土	五寸五分位ヨリ下層ハ褐色砂土（一部ニ於テ一尺内外下層ハ濃黃色粘土）
3	廣瀨	水田	褐色 砂質壤土	五寸…八寸以下ハ一尺五寸位迄淡黃色ノ砂土
4	向	水田	灰色 砂質壤土	一尺位ヨリ下層ハ黃色砂土
5	公文垣内	水田	灰色 砂質壤土	八寸位ヨリ下層ハ淡黑色ノ砂土
16	梅本	水田	灰色 砂質壤土	五寸位ヨリ二尺三寸位迄腐植質埴土層ヨリ以下ハ灰白色ノ砂土
14	上切	桑畑	暗褐色 壤土	一尺ヨリ一尺七八寸迄ハ灰褐色埴土以下ハ腐植質埴土
15	上切（高臺傾斜地）	桑畑	黃褐色 砂土或ハ塊質砂土	一尺二三寸位ヨリ腐植質埴土
12	天猷寺西方		黃褐色 礫質砂土	
17	中畑	桑畑	暗褐色 壤土	七寸位ヨリ下層ハ黃褐埴質壤土
18	六田	水田	灰褐色 砂質壤土	七寸位ヨリ下ハ黃色或ハ黃褐色砂土
19	下切	水田	六田ノ土性ト同シ	
	同（高臺）		灰褐色 壤土	五寸以下ハ濃茶褐埴土
22	萩原	桑園	暗褐色 壤土（礫ヲ含ム）	一尺位ヨリ下層ハ礫多シ
7	岩倉	水田	黃褐色 埴土	五寸位ヨリ下層ハ濃茶褐強粘土
9	逆川	桑畑	暗褐色 砂質壤土	一尺二寸位ヨリ二尺七寸位迄ハ黃色砂土
	同	水田	暗褐色 砂質壤土	三寸五分ヨリ一尺位ノ下層ハ黃色砂或ハ暗褐色ノ壤質砂土
11	同	水田	茶褐色 埴土	
20	細山	畑地	暗褐色 壤土	五寸位ヨリ下層ハ灰白色埴土或ハ濃赭褐色ノ強粘土
21	大久保	水田	灰色 壤土	一尺内外ヨリ下層ハ黃色埴土
23	平山（大西）	水田	黃褐色 壤土	四五寸位ヨリ下層ハ黃色埴質壤土
24	同（水上）	水田	灰色 砂質壤土	六寸位ヨリ下ハ暗茶褐色壤土
25	論栃	桑畑	暗褐色 壤土	六寸位ヨリ黃褐色埴土
26	川戸	桑畑	灰色 砂土	五寸位ヨリ下ハ黃色砂土一尺五寸位ヨリ礫
27	上平（砂田）	水田	暗色 砂土壤土	四五寸ヨリ下層ハ微褐質暗色壤質砂土
28	大洞	桑畑	暗褐色 砂質壤土	七寸位ヨリ下ハ腐植質埴土

338
916

昭和十一年九月二十日印刷
昭和十一年九月二十八日發行

【非賣品】

岐阜縣土岐郡釜戸村三、〇一〇番地ノ七
編輯兼發行者　渡邊榮吉

岐阜縣土岐郡瑞浪町一、一九二番地
印刷者　丸山敏郎

岐阜縣土岐郡瑞浪町一、一九二番地
印刷所　丸山文海堂

岐阜縣土岐郡釜戸村三、〇一〇番地ノ七
發行所　岐阜縣土岐郡釜戸尋常高等小學校

29

川原	水田	灰白色	砂質壤土
上平	桑畑	灰白色	壤質砂土
			壤質砂土

七寸位ヨリ灰白色ノ埴質壤土
一尺四五寸位ヨリ礫